

報道関係各位

2015年 4月23日

「自動車向け機能安全規格ISO26262 Part5 安全分析 運用支援コンサルティングサービス」を開始 ～Part5に関する社内プロセス構築に関するニーズへの対応を強化～

株式会社構造計画研究所（本社：東京都中野区、代表取締役社長：服部正太、以下「KKE」）は、「自動車向け機能安全規格 ISO26262 Part5^{※1} 安全分析 運用支援コンサルティングサービス」の提供を2015年5月18日より開始いたします。

KKEでは、2012年4月より、IHS社（本社：米国コロラド州）のリスクマネジメントソリューションとともに、ISO26262 Part5 安全分析手順を取り込んだ「ISO26262 故障解析テンプレート」とその導入支援サービスを数十社様に提供してまいりました。こうした中で、まずは安全分析に関する社内プロセスを構築したいとのご要望を多くいただいております。これにお応えするため、これまでの導入実績から得られたノウハウを基とした、ISO26262 Part5 安全分析コンサルティングサービスのご提供を新たに開始いたします。

■ ISO26262 Part5 安全分析 運用支援コンサルティングサービスの主な内容

＜対象となるお客様＞

- これからISO26262 Part5 および安全分析プロセスの構築に取り組まれる方
- 分析手順が分からず、悩んでいる方
- 弊社製品（ISO26262 故障解析テンプレート）をより使いこなし、業務効率を高めたい方
- まずはExcel を使って、安全分析プロセスの理解を深めたい方 等

＜提供サービスの内容＞

本サービスでは、弊社の導入実績から得られたお客様からのニーズヒヤリングや、ISO26262 故障解析テンプレートに包含するノウハウを基に、回路設計に対する ISO26262 要求事項の検証プロセス（安全分析～アウトプット（メトリクス、PMHF、故障率クラス））を以下のカリキュラムにてご提供いたします。^{※2}

No.	項目	内 容
1	Part5の分析フロー、必要なデータ、アウトプット	分析全体イメージの掌握を目的とし、規格の要求事項、分析フロー、必要データ、アウトプットについてご説明します。
2	IEC62380故障率算出モデル	同モデル利用による故障率算出に対し、モデルの概念、利用方法をご説明します。
3	安全目標侵害,FMEA,FTAの作成	安全目標の定義し、回路コンポーネントの故障影響による安全目標侵害をFMEAで分析します。また、FTAにより安全目標侵害のメカニズムをモデル化します。
4	カットセット分析とSPF,MPFの特定	FTAのカットセット分析を実施し、SPFおよびMPFを特定します。
5	カバレッジとFMEDA、メトリクス計算	エレメントに対する安全メカニズムカバレッジ評価、FMEDAによる各コンポーネントに対するカバレッジ分析を実施。必須であるメトリクス(SPFM,LFM)集計を評価します。
6	PMHF計算	ハードウェアの偶発故障に対する、故障確率を分析し、アウトプットの一つであるPMHFを算出します。※特にADPFの考え方について説明します。
7	故障率クラス、その他まとめ	ハードウェアの偶発故障に対する、故障確率を分析し、アウトプットの一つの方法である故障率クラスを分析します。
8	フォローアップ	No.1～7全体のフォローアップおよび理解を深めたい内容を個別にフォローアップします。

表1 コンサルティングサービスカリキュラム

＜スケジュール＞ 2回／月 ×4 計8回（オンライン6名まで） ※日程は別途協議のうえ決定

＜費用＞ ¥3,000,000～ ※特別キャンペーン価格あり（後述）

■ 特別キャンペーン

本サービスの開始に際し、2015年6月末までのご発注につき、本サービスを特価（値引額：¥500,000）にてご提供します。なお先着3社までといたします。

■ セミナー情報

弊社、リスク・信頼性分析ソフトウェアの体験セミナーもご用意しています。

「自動車向け機能安全規格 ISO26262 安全分析および IEC62380 故障率算出シート」紹介セミナー

- 日 時 : 2015年5月29日(金) 13:30~17:00
- 場 所 : 構造計画研究所 本所新館(東京/新中野)
- 参加費 : 無料
- 詳 紹 : IHS リスクマネジメントソリューション製品紹介サイト
<http://solution.kke.co.jp/ihc/seminar/>

■ 本サービスに関する詳細情報

ISO26262 Part5 安全分析 運用支援コンサルティングサービス紹介サイト

<http://solution.kke.co.jp/ihc/news/>

※1 ISO26262について

自動車の車載電子制御向け機能安全についての国際規格である ISO26262 は、2011年11月に正式発効されました。この規格の発効により、関連メーカやサプライヤは、今や自動車にとって欠かせない電気／電子制御システムについて、「壊れても安全」である設計とその証明が国内外問わず求められることとなり、各社が対応を進めています。当規格はPart1～10で構成されており、Part5では「ハードウェアレベルにおける製品開発」について規定されています。

※2 本サービスのご利用にあたり、弊社のリスク・信頼性分析ソフトウェアの利用は必須ではございません。 (推奨となります。なお、Excelなどの利用も可能です。)

■ 会社情報：株式会社構造計画研究所（<http://www.kke.co.jp>）

構造計画研究所は1956年に建築物の構造設計業務からスタートし、それら人工構築物を取り巻く自然環境(地震、津波、風など)、そして社会・企業・コミュニティへと解析の対象範囲を広げてきました。「大学、研究機関と実業界をブリッジするデザイン&エンジニアリング企業」として、知の循環から生まれる工学知を基に社会のあらゆる問題を解決し、「次世代の社会構築・制度設計」の促進に貢献します。

■ 本件に関するお問い合わせ先

- ・製品、セミナー、技術内容窓口

株式会社構造計画研究所 製造企画マーケティング部 田口／宮本
TEL:03-5342-1046 FAX:03-5342-1047 e-mail: ihc@kke.co.jp

- ・ニュースリリースに関するお問い合わせ

株式会社構造計画研究所 広報担当 守武
TEL:03-5342-1040 e-mail: kke-pr@kke.co.jp

構造計画研究所および、構造計画研究所のロゴは、株式会社構造計画研究所の登録商標です。その他、記載されている会社名、製品名などの固有名詞は、各社の商標又は登録商標です。